

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																						
札幌医療秘書福祉専門学校	昭和62年12月24日	梶田 規文	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西18丁目1-8 (電話) 011-641-0865																						
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																						
学校法人三幸学園	昭和60年3月8日	昼間 一彦	〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-9641																						
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																					
商業実務	専門課程	診療情報管理士科	平成21年文部科学省告示第21号																						
学科の目的	世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、本学科は、学校教育法に基づき、医療業界関連分野において活躍する人材を育成するため、必要とされる知識と技術を教授することを目的としている。																								
認定年月日	平成28年2月19日																								
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験																				
3	157	140	0	17	0																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
120	55人	0人	16人	5人	21人																				
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日	成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 <small>評定法を記述する。 教科ごとに定められた評価方法で評価する際、100点法で満点を出し、それを20で割り四捨五入し、5点法に換算する。その後、授業態度、出席状況を考慮しランクの上下を認める。</small>																					
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月21日～4月10日	卒業・進級条件		教育課程の修了や卒業は、所定の課程を修了し試験等に合格した者について、卒業の成績及び品行を斟酌して認める。																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また、カウンセリングルームを紹介するなど、担任のみならず学校に関わる教職員でサポートしている。	課外活動		■課外活動の種類 ボランティア活動 海外研修 ■サークル活動: 有																					
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 病院、クリニック、調剤薬局等 ■就職指導内容 ・就職ガイダンスを実施 ・HRの授業を活用して身だしなみ、模擬面接会、履歴書指導 ・放課後の時間を活用して、個別面接指導 ■卒業生数 25 人 ■就職希望者数 25 人 ■就職者数 24 人 ■就職率 : % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 28 年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療情報管理士認定試験</td> <td>③</td> <td>25</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>医療事務検定</td> <td>③</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>パソコン検定</td> <td>③</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定ジョブパス</td> <td>③</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄	資格・検定名	種	受験者数	合格者数	診療情報管理士認定試験	③	25	21	医療事務検定	③	25	25	パソコン検定	③	25	25	ビジネス能力検定ジョブパス	③	25	25
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
診療情報管理士認定試験	③	25	21																						
医療事務検定	③	25	25																						
パソコン検定	③	25	25																						
ビジネス能力検定ジョブパス	③	25	25																						
中途退学の現状	■中途退学者 4 名 平成28年4月1日時点において、在学者66名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者62名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学校生活への不適合・進路変更等 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談実施し、個々の悩みを早期発見・解決実施。 希望者には、スクールカウンセラーに面談を実施 退学希望者に関しては、保護者へ交えて話し合いを実施		■中退率 3.5 %																						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度:有 特待生試験による、授業料免除制度(3年間150万、90万、60万、30万、15万) ■専門実践教育訓練給付:給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																								
当該学科のホームページURL	http://www.sanko.ac.jp/sapporo-med/																								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行ない、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

- (1)授業科目及び授業方法の改善・工夫に関すること
- (2)地域の産業振興の方向性や業界の成長に伴い、新たに必要となる知識に関すること
- (3)地域の産業振興の方向性や業界の成長に伴い、新たに必要となる技能に関すること
- (4)地域の産業振興の方向性や業界の成長に伴い、新たに必要となる技術に関すること
- (5)カリキュラム及び授業計画(以下シラバス)の改善に関すること
- (6)その他業界及び職業教育について必要な事項に関すること

また医療機関実習(病院実習)を通し、医療現場における医療従事者として実践的な技術を習得するとともに、業界の動向や求められる人材を把握するため、研究会等との連携を図ることで、現場の求めるニーズを確実に捉え、本校の授業内容シラバスやカリキュラムに反映する。また実務能力レベルを計る資格・検定取得に向けても取得率の向上に向けて学習指導方法の見直し、改善に努めることも目的としている。さらに実習先である医療機関に対し、アンケート等を実施することにより、学生に不足する、あるいは必要とされる能力を把握する。これらのことによつて得た結果も、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会構成員は札幌医療秘書福祉専門学校と施設関係等の外部役員から成るものとし、審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

【教育課程編成の基本方針決め・前年度の問題点抽出】

企業関係者等の外部委員より、専攻分野に関した動向や新たに必要となる人材スキル等の業界の実情をヒアリングし、委員会で協議をし、次年度の教育課程編成の基本方針を決める。さらに、前年度の問題点をピックアップし、施設関係者等の外部委員から見識ある改善意見も集約する。

↓
【教育課程編成の科目詳細決め】

委員会構成員の中の札幌医療秘書福祉専門学校教員によって、各科目の詳細を決定し、また、集約した改善意見も教育課程に反映させ、次年度の教育課程の仮案を完成させる。

↓
【MS委員会(各専門学校代表による分野別会議)にて教育課程編成の決定】

委員会構成員の中の札幌医療秘書福祉専門学校教員による教育課程の仮案に基づいて、再度、MS委員会で協議をし、次年度の教育課程を決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月23日現在

名前	所属	任期	種別
亀山 信夫	社会福祉法人 北海道厚真福祉会 常務理事 北海道身体障害者福祉施設協議会 会長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
米森 寛	株式会社エクサム 代表取締役	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
笹田 直人	社会福祉法人 札幌山の手リハビリセンター 理事長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
脇田 英樹	医療法人大地 小笠原記念札幌病院 事務長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
佐藤 正子	社会医療法人母恋天使病院 診療情報管理士科 課長 日本診療情報管理学会 委員	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	②

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

第1回 平成29年8月31日 18:00～20:00

第2回 平成30年2月20日 18:00～20:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- ・現場で活躍できる人材育成の提案を頂いた
→コミュニケーション能力の向上が一番重要。授業だけではなく行事や実習などを通して学べるようにする。
- ・新入社員の退職者軽減の提案を頂いた
→現場で活躍している人たちの声を聞く授業を取り入れる
→就職した後のフォローも実施して、教職員が現状の把握を行い生徒指導に役立てる。
- ・現場での実践力を養うためにロールプレイを実施することの提案を頂いた
→教室ではなく、受付などイメージができる施設の中で実施していく。
→教科書だけではなく、得た知識で実践的な授業を行う。(シラバスに入れていく)

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校のカリキュラムの一環として医療機関実習を導入しており、実習を通して医療現場及び医療業務の実際を体験し、知識の習得度の確認と実践、現場で実際に患者様、職員様とのコミュニケーション、対応力を学ばせて頂くことを目的としている。4週間の実習期間を設定し、可能な限り長期間で医療現場での経験を積ませて頂くことで、仕事の緊張感、厳しさのみならず、充実感や遣り甲斐を見出すことでその後の学習意欲の向上と積極的な就職活動へ繋げて行くことを狙いとしている。

改めて現場実習の狙い、目的を以下の通り記載する。

- ①学校で履修した知識、技術を医療機関において確認するとともに、医療従事者としての自分自身を問い直す機会とする。
- ②医療機関における医療従事者の職務内容の理解と、医療現場の仕組みや体制を把握し、自らの社会的役割と責任を学ぶ。
- ③職員様との関わり、患者様とのコミュニケーションを実体験し、社会人としての対応力を高める。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

診療情報管理士科2年次後期にて4週間の医療機関実習。予め実習を受諾頂いた医療機関において、診療情報管理士業務である、データ分析、カルテチェック、統計表作成や、秘書業務として受付業務、レセプト計算業務、電話対応業務等の各医療機関に定められた医療事務業務、その処理能力、対応能力の現状把握と向上に努める。期間中は医療機関側に教育指導を依頼し、業務姿勢への指導、実践業務への教育を頂き、指定期間終了後は実習評価として、『基礎・能力』、『生活態度』、『実習態度』を4段階で評価を頂くこととしている。

評価項目の詳細は次の通りとする。

『基礎・能力』:基礎能力(保険・医療事務・医学等に関する基礎的な知識、学力は有しているか)

応用能力(指示された内容が良く把握され、工夫して仕事が出来たか)

事務実務能力(事務能力が上手くでき、計画的、創意的に仕事が出来たか)

『生活態度』:あいさつ(基本的なあいさつができていたか)

マナー(社会的なマナーが正しく守られており、折り目正しい生活態度がある)

コミュニケーション(周りとのコミュニケーションを図り積極的に取り組んでいたか)

『実習態度』:勤務態度(実習時の勤怠、研究心があり、熱意は見られたか)

身だしなみ(正しい服装ができ、爪、髪型などの清潔な印象を相手に与えたか)

日誌等の提出物(レポート・日誌等を毎日克明に記載し期日を守って提出していたか)

患者対応の態度(患者様の身になって不愉快な思いをさせないよう対応していたか)

以上の評価を確認しながら、本学担当教員についても学生の現状の習熟度と課題を明確に以降における学習に努められるよう、実習期間前後の打合せ巡回訪問を重ねながら連携を図っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
病院実習	実際の医療現場で、診療情報管理士業務であるデータ分析や受付での患者対応や入退院業務等を経験させてもらい、今まで勉強してきたことがどれだけ活かせるかを図る。また、カルテ業務全般を経験させてもらい、職業観を身に付ける。	札幌厚生病院・北海道循環器病院・札幌中央病院・札幌循環器病院・NTT東日本札幌病院 他多数

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施し、『相手のこうして欲しいを理解し、自ら考え自ら行動できる人材』を育成していくため、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、以下のとおり教員研修の環境を整える。

- ・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修
- ・指導力の修得・向上のための研修
- ・アクティブラーニングの手法を取り入れた教育方法の研修

なお、当該研修等を計画的に教員に受講させるにあたり諸規定に定められている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・全教員を対象に各教科からの視点から、近年の生徒の状況を踏まえた今後の対策を話し合う研修(H29.4)
- ・全教員を対象に各クラスにて、生徒状況の確認を行い今後の対策等すり合わせを実施し指導内容の確認を行う研修。(H29.5～6)
- ・全教員を対象に各教科、前期を振り返って後期から取り組める対策を話し合う研修(H29.8)
- ・教員、生徒を対象に関連業界における実務に関する研修(H29.2)

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・全教員対象のアクティブラーニングの手法を取り入れた教育方法の研修(H29.4)
- ・全教員対象のアクティブラーニングの手法を取り入れた教育方法の研修(H29.8)
- ・カウンセラーにお越し頂き、生徒対応方法技術向上の勉強会(H29.9)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・生徒、教員を対象に関連業界における実務研修(H29.12)
- ・生徒、教員を対象に関連業界における実務研修(H30.2)
- ・外部講師による分野別研修(H30.3)

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・全教員対象のアクティブラーニングの手法を取り入れた教育方法の研修(H30.2)
- ・教職員全体研修(H30.2)
- ・全教員対象のアクティブラーニングの手法を取り入れた教育方法の研修(H30.3)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、商業実務分野の業界関係者及び卒業生、高等学校の教員等と共に、学校関係者評価委員会を設置して、当該専門分野における実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。

学校関係者評価は、「私立専門学校等評価研究機構 専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。また、評価結果は学校のホームページで公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか

(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか ・受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか ・学内で適切な体制が整備されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

各項目ごとに話し合われた評価をまとめ、改善点について「短期・中期・長期」の視点より分類し、短期目標についての改善点について検討した上で、検討内容について次回学校関係者評価委員会へ提出することとする。

- ・退学低減を遂行していくために現場見学の実施の提案を頂いた
→夏休み等を活用し、希望者には病院やクリニックの見学を実施した。また、入学希望者に対しても早期にイメージを持ってもらうように実施した。
- ・現場での実践力を養うためにロールプレイを実施することの提案を頂いた
→できる限り授業内で実施し、実習までにイメージができるように取り組んでいる
- ・生徒の主体性の育成の重要性についてご意見を頂いた
→日々の学校生活から行事等ですべてを与えるのではなく、考えさせる時間を多く持たせるようにしている

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月23日現在

名前	所属	任期	種別
亀山 信夫	社会福祉法人 北海道厚真福祉会 常務理事	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界関係者
畠山 和久	医療法人社団 静和会静和記念病院	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界関係者
渋谷 由美子	社会医療法人 孝仁会北海道大野記念病院 脳ディカルクラーク科 課長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	卒業生・業界関係者
轟 健太郎	株式会社 共立メンテナンス支店長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	地域関係者
武田 祥子	飛鳥未来高校 札幌キャンパス キャンパス長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	高等学校関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL: <http://www.sanko.ac.jp/disclosure/>

平成29年7月公開

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則って情報提供を実施することで、学校の指導方針や課題への対応方法等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげる。また、入学希望者やその保護者に対し、進路選択に当たっての有用な情報を提供するとともに、一人ひとりの能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。そして、キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習・就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげることを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ●学校の目標及び計画、経営方針、特色 ●校長名、所在地、連絡先等 ●学校の沿革、歴史 ●その他の諸活動に関する計画
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●収容定員 ●カリキュラム ●学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none"> ●教員の組織、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ●実習・実技等の取組状況 ●就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ●学校行事への取組状況
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ●学生生活への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ●活用できる経済的支援措置の内容等
(8)学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ●貸借照表 ●収支計算書
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ●自己評価・学校関係者評価の結果 ●評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.sanko.ac.jp/disclosure/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 診療情報管理士科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			看護学 (医療総論)	医療機関に勤める者の基礎知識である、法律(医療法)や職種について学ぶ	1通	30	2	○			○	○			
○			看護学 (解剖・生理)	医学的基礎知識を学ぶ。解剖学でからだの形と構造を生理学でからだの働きを学習する。	1通	75	5	○			○	○			
○			看護学 (薬理学)	各病気ごとの薬物療法に使われる薬を基礎から学ぶ	1後	15	1	○			○	○			
○			看護学 (検査学)	病院で行われる検査について詳しく学ぶ	1後	15	1	○			○	○			
○			看護学 (病理学)	病気の成り立ちを細胞レベルから各臓器にいたるまで学ぶ	1後	30	2	○			○	○			
○			看護学 (医療用語)	病院で必要な医療用語を漢字や略語として学ぶ	1後	15	1	○			○	○			
○			ビジネス マナー	社会人としてのマナーと知識の基礎を学ぶ。サービス接遇検定・ビジネス能力検定取得に向けての学習をする。	1通	75	5	○			○	○			
○			診療録管理学	診療録の必要性・重要性、管理体制を教科書をもとに学習する。	1前	15	1	○			○	○			
○			医事CP・ 電子カルテI	医療事務の基礎知識をもとに医事コンピュータを使用したの診療報酬算定技術を学ぶ。	1後	30	2	○			○	○			
○			医科医療事務 I	点数表を読解し、社保・国保・退職者・後期高齢の外来、入院の点数算定を主に行う。	1通	300	20	○			○	○			
○			医療秘書概論	日本の医療保険制度や健康保険法を中心に医療の現場に必要な知識を学ぶ。	1通	30	2	○			○	○			

○		ペン字	硬筆書写技能検定2,3級を受験することにより、履歴書をはじめ、書類を専門的な技術、知識をもって書けるようにする。	1通	60	4	○			○		○		
○		電卓検定	電卓検定3級取得を目指す。その中で、基本的な電卓の使い方を学ぶ。	1前	15	1	○			○		○		
○		パソコン実習 I	パソコン技能検定3級の取得を目指す。Wordでは入力の基礎、表作成、ビジネス文書の作成を行い、Excelでは基本的な操作方法（関数を含む）、グラフの作成を習得する。	1通	60	2				○	○		○	
○		未来デザインプログラム I	フランクリン・コヴィーの「7つの習慣」を元に、成功するための思考行動習慣の法則を体系的に学ぶ。	1通	60	2	△			○	○		○	
○		疾患学	病院で出会う患者さんの病気について内科的、外科的治療を中心に学ぶ	2通	60	4	○			○			○	
○		看護学 (母性)	女性の体の仕組みを妊娠、出産のメカニズムを学ぶ	2後	30	2	○			○			○	
○		看護学 (医療用語 II)	医療従事者としてふさわしい医療用語、略語、専門用語を学ぶ	2前	15	1	○			○			○	
○		秘書実務	医療従事者のマナー・心得・患者様の心理とその対応など、医療機関での患者接遇を学ぶ	2前	15	1	○			○			○	
○		医事 II ・ 介護事務	調剤事務、介護事務を学び様々な分野の知識を深める。	2通	60	4	○			○			○	
○		医事 CP ・ 電子カルテ II	医療事務の基礎知識をもとに医事コンピュータを使用しての診療報酬算定技術を学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
○		臨床医学総論	医療に関する歴史的変遷を学び、現状を理解する。人体の基本的仕組みを系統的に学ぶ。	2前	15	1	○			○			○	
○		臨床医学各論 I (感染症および寄生虫症)	感染症および寄生虫における感染経路・感染症類型などに触れるとともに、細菌感染症・ウイルス感染症・真菌感染症や寄生虫症等それぞれの主要疾患について、特徴・症状・検査・治療を理解する。	2前	15	1	○			○			○	
○		臨床医学各論 II (新生物)	新生物の分類（癌と関連）とその特徴及び全身に発症する各新生物について、発症の原因、主症状、検査法などを学習する。	2前	15	1	○			○			○	
○		臨床医学各論 III (血液・代謝・内分泌・)	発症頻度の高い疾患名は確実に記憶し、特徴的な症状・検査法・治療法も理解する。稀な疾患も疾患名は覚え、どこの病名か、何科で使う病名かを理解する。	2後	15	1	○			○			○	

○		病院管理と社会保険	医療法をはじめ、医療従事者関連の各法律と病院の業務を知り病院経営管理の理論を学ぶ。	2通	30	2	○		○	○								
○		パソコン実習Ⅱ	パソコン技能検定準1級の取得を目指す。Wordでは入力の実用、図形（地図・組織図など）、段組み・ルビの作成を学び、Excelでは操作の実用と関数・VLOOKUP・HLOOKUP・AND・OR・データベース関数などを学ぶことで作図・はがき作成、検索・抽出・集計などを習得する	2通	60	2			○	○	○							
○		パワーポイント演習	ツールの違いやデジタルプレゼンの必要性を理解し、画面構成・表示モード・テキスト・図形・グラフ挿入を学ぶことでフリーデザインによるパワーポイント作成を習得	2通	60	2	△	△	○	○	○							
○		手話	手話の必要性を理解し、基礎的な手話を学ぶことで、手話による自己紹介や簡単な会話を習得する。	2通	30	2	○		○	○	○							
○		未来デザインプログラムⅡ	フランクリン・コヴィーの「7つの習慣」を元に、成功するための思考行動習慣の法則を体系的に学ぶ。	2前	45	1	△		○	○	○							
○		病院実習	実際の医療現場で、受付での患者対応や入院退院業務等を経験してもらい今まで勉強してきたことがどれだけ活かせるかを図る。	2後	180	6			○	○	○							○
○		医療情報学Ⅱ	オーダエントリシステムや電子カルテシステムなどの病院情報システム及び地域医療システムを学ぶ。また医療情報の標準化と情報セキュリティの基礎を学ぶ	3前	15	1	○		○	○	○							
○		医療統計学	統計的方法による分析の基礎を学び、基本的用語を理解する。また視覚化（グラフ）の方法を学ぶ。	3前	45	3	○		○	○	○							
○		分類法	病名・解剖図を頭に描きながら臓器の部位、位置等を確認しながら、確実なコードが付与出来るように技術の習得を目的とします。	3前	45	3	○		○	○	○							
○		診療情報管理士受験対策ゼミ（基礎分野）	1・2年生で学んできたことを再確認し、診療情報管理士認定試験に向けて、医学知識を十分につけさせる。	3通	210	14	○		○	○	○							
○		診療情報管理士受験対策ゼミ（専門分野）	1,2年生で学んできたことの再確認の為に問題集を活用し、診療情報管理士認定試験の専門分野の対策を行う。	3通	150	10	○		○	○	○							○
○		診療情報管理士受験対策ゼミ（分類分野）	病名・解剖図を頭に描きながら臓器の部位、位置等を確認しながら、確実なコードが付与出来るように技術の習得を目的とします。	3前	45	3	○		○	○	○							
○		医療事務研究特講	難易度の高いMS準1級に向けて算定対策や法規を理解する。また、DPCの概論やDPCの算定について学ぶ	3通	60	4	○		○	○	○							
○		就職試験対策	就職試験に向け、筆記試験対策、面接対策を行う。	3通	60	4	○		○	○	○							

○		医療秘書検定特講	医療秘書技能検定準1級合格に向け、検定対策を行う。診療情報管理士認定試験の基礎分野の対策も行う。	3前	60	4	○		○	○									
○		パソコン実習Ⅲ	データベースの考え方、また一つのミスが致命傷となり全体へ影響する事などを学ぶ。ACCESSの操作はもとより、慎重且つ確実なチェックを重視する。	3通	60	2			○	○	○								
○		人間関係論	複雑に絡む人間関係をよりよい関係で関わることを心理学を通して理解する。	3後	30	2	○			○								○	
○		医療マーケティング論	マーケティングの基礎を学ぶことで、ソーシャルマーケティングの重要性と、ソーシャルマーケティングの知識を身につける。	3後	15	1	○			○								○	
○		医事C P (D P C)	D P Cの算定知識を学びながら、I C Dコードとの関連性について理解を深める。	3後	15	1	○			○								○	
○		プレゼンテーション実践Ⅰ	社会人になるに当たり必要なコミュニケーション能力を高める。	1通	60	4	○			○								○	
○		ホームルーム	検定や行事等のスケジュール確認や伝達事項の確認を行う。	1通					○									○	
○		ホームルーム	検定や行事等のスケジュール確認や伝達事項の確認を行う。	2通					○									○	
○		ホームルーム	検定や行事等のスケジュール確認や伝達事項の確認を行う。	3通					○									○	
	○	教育・文化の学習(A)	社会に出るにあたり、自らに必要な技術知識の習得や文化学習を行う(美容・健康・食・福祉・書など)	1前	30				○									○	
	○	教育・文化の学習(B)	社会に出るにあたり、自らに必要な技術知識の習得や文化学習を行う(美容・健康・食・福祉・書など)	1後	42				○									○	
合計				65科目				2705単位時間(157単位)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
所定の課程を修了し試験等に合格した者について、平素の成績及び品行を斟酌して認める。また、成績評定に関しては別に定め、出席時間数が授業時数の3分の2に満たない者については該当科目の認定をしない。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。